

平成28年度 学校評価総括表 伊丹市立南小学校

教育目標		『強い体にきれいな心』・温かく生き生きと学べる落ち着いたきれいな学校 ・めあてを立てて最後までやりぬく広い心とやさしい気持ちを持つ子 ・教えるプロとしての自覚を持ち資質を向上させる教職員						
重点目標		①基礎基本の定着を図る②ことばの教育を推進する③たのしい英語学習を進める④自他の人格を尊び、思い合う心を育成する⑤自然体験、社会体験、勤労体験などを通して、社会性や倫理観などを身につける⑥気づき合い、認め合い、喜び合う学習を創造する⑦自己の体位、体力を自覚し、心身共に健康な生活を目指す力を育成する⑧基本的生活習慣の定着を図る⑨食育を推進する						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	・基礎的、基本的な知識・技術を習得する ・授業力のさらなる向上と授業の改善をめざした校内研究(国語)を実施する。	・漢字の小テスト、算数の振り返りテストを定期的実施する。単元ごとの振り返りテストも実施する。 ・校内研修として全ての教員が1回以上授業を公開する。	・漢字の小テスト、算数の振り返りテストの正答率が平均90%以上になる。 ・全ての教員が年1回以上授業を公開する。 ・「授業がわかりやすくて楽しい」と回答した割合が85%以上になる。 ・「先生は、教え方に工夫している」と回答した割合が85%以上になる。	C	・漢字や算数の小テストによる取り組み等を通して基礎基本に力を入れて指導できている。また、国語では研究発表会に向けて校内研究で、授業研究に取り組むことによって、教師の授業力改善も見られた。 ・しかし、4. 5. 6年児童アンケートでは、「授業がわかりやすい」が75%(4年)82%(5,6年)と、「先生は教え方に工夫している」が80%(4年)84%(5,6年)である。 ・これらの結果から、行事も多く、ゆとりを持って児童と向き合う時間が確保できないことも課題と考えられる。	個別指導・家庭との連携、そして教材研究を今後更に徹底していくためにも、年度末評価で行事を精選して、新年度につなげていく。研究では今年度研究発表会を終え、新たな目標をもって学校全体で研究に取り組んでいくとともに、今年度まで研究によってつけてきた児童の力を今後も伸ばしていけるよう取り組んでいく。基礎基本においては、家庭学習(宿題)の充実と提出のチェックなどを徹底し、家庭への啓発も行っていく。	・行事の精選(数や取り組み方法等)を行い児童と向き合うゆとり時間を確保していただきたい。
	思考力・判断力・表現力の育成	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。	・単元の中で、作文・意見文の指導をしたり、説明的文章を要約する学習(字数制限)を行う。(特に高学年) ・国語を中心に、友だちの意見を聞いて新たな考えが生まれるような話し合い学習を組む。 ・「本を読もうカード」を活用し、読書意欲を更に高める。 ・年に2回、音読交流会をきょうだい学級で行い、表現力を高める。	・学力テストの国語の記述問題において、無答率が20%以下になる。 ・書き込みシートや授業の振り返りの記述に、考えの深まりが見られる。 ・1ヶ月の読書目標数平均10冊を達成する。 ・表現読みが十分できるようになる。	B	・研究テーマく伝える・つながる・高め合う学び>(自ら表現し、深め合える授業づくり)を実践していく中で、子どもたち同士の話し合いによる交流も深まってきている。 ・「本を読もうカード」は全校での取り組みの結果、読書量も月平均10冊以上となっている。しかし、保護者アンケートでは「すすんで読書しようとしている」の割合があまり高くないので、今後とも更に進めていく必要がある。	・今年度までの研究教科の国語だけでなく他教科でも話し合い活動、書く活動、説明する場面を今後も設けて下り組んでいく。 ・朝学習をとり組んできたが、活用の仕方を検討し(読書タイムやミニ作文など)、徹底して取り組んでいく。	・話し合いによる交流の深まりができてきている事は大変よく、本研究テーマを継続してほしい。 ・読書については、冊数だけでなく内容の充実も働きかけしてほしい。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・各教科の単元ごとに、電子黒板や実物投影機等を使った授業を行う。 ・家庭で学習する時間が低学年30分、中学年60分、高学年90分になるよう、課題を与えたり、自主的な学習できるよう指導する。	・単元終了後のアンケート、感想等を取り、「よくわかった」が80%以上になる。 ・家庭学習で、低学年30分中学年60分、高学年90分の目標時間を達成する。	C	家庭学習で、低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標時間の達成は高学年がやはり厳しい。電子黒板は、各クラスにほぼ1台設置されたことで、必要に応じて利用できている。家庭学習については、読書も含め、学校から各家庭に啓発を進めるとともに、児童への宿題や自主学習の指導を進めていく必要がある。	・家庭学習については、保護者を巻き込む内容を盛り込んで課題を出していく方法や自主学習を進めていく方法に取り組む、学習意欲や環境が十分でない児童へは家庭との連携に根気よく取り組んでいく。 ・今年度は電子黒板の活用により分かりやすい授業ができたので、今後もさらに多くの教科で活用していくことで、児童の学習意欲も上げていく。	・家庭学習は、家庭との連携を継続しながら課題のチェックや声かけをしながら、量より質を大切にしていきたい。
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む道徳教育	・「心の教育」を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心、自尊心を育む。	・「心のノート」「心シリーズ」「伊丹っ子ルールブック」等を活用し、「生命の尊重」「思いやる心」「自尊心」を重点化した授業を行う。昨年度より取り組んでいる小中連携の道徳授業の取り組みなどで、規範意識を育てていく。 ・「心シリーズ」については、本を学期に1度、持ち帰り、保護者の感想を書いてもらうなどして、家庭との連携を深める。	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。	B	・アンケートでは79%(4年)81%(5,6年)となっている。 ・人権参観や道徳の授業を通して、人権について学んだり、考えたりする取り組みは行っている。しかし、今後とも児童の実態に即したカリキュラム作りの検討を進める必要がある。	・年度初めには各学年で道徳の内容、進め方を徹底して取り組んでいく。家庭への啓発も重要であるが、行事(人権参観や2分の1成人式など)を通して取り組んでいく。 ・児童に対しては学校の教育活動全般を通して日々指導を続けて行く。	・教科書、テキスト上での取り組みにとどまらず、行事や学級経営など具体的な場面でも教育が大切だと考えられる。
	体力の向上	・「早寝・早起き・朝ご飯」を実践する児童を育てる。 ・日常的に運動する習慣をつける。	・保護者に呼びかけたり、児童への啓発活動を継続して進める。 ・PTAと連携して「みなみんピック」を行う。	・「早寝・早起き・朝ご飯実践している」と回答した割合が85%以上になる。 ・日常的に運動しようとする意欲が高まる。	C	・「早寝・早起き・朝ご飯」については、保護者は85%(1~4年)、80%(5,6年)、児童は72%(4年)79%(5年)となっている。児童の中でも、4年生72%が低く、高学年に入るとの生活の乱れを感じる。 ・みなみんピック、ハッスルタイム等で日常的に運動させるような取り組みはしてきているが、更に取り組んでいく必要がある。	・「早寝・早起き・朝ご飯」については、保健や家庭科なども含めた授業を通して指導を続けて行くと同時に、保護者への啓発も続けて行く。 ・今年度もハッスルタイムに取り組んでいるので、今後も充実させていくことで、運動量の確保をしていく。	・学校での取り組みは家庭との連携によって完成する事を発信していく。

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・学校ホームページを月1回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートで「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて「学校は保護者の願いに答えている」と回答した割合が90%以上となる。	A	・保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」の割合は95%以上、「学校は保護者の願いに答えている」の割合も90%以上を達成している。 ・学校便り・学年便り・HPの更新等を頻繁に行うことは評価されており、各家庭との連携が図られたと考えられる。	・大改修により落ち着いた学習環境を今後とも維持していく。 ・今後ともHPや学校便りを通して各家庭への連絡連携がとれるように取り組んでいく。	・情報は十分に発信されているので、一方通行になっていないか、情報交換出来ているかを確認していく。
り安心・安全な学校作	子どもの安全対策の推進	・避難訓練等を通して、児童に危機対応能力を育てる。	・火災、地震等の避難訓練(事前事後学習も含め)を実施する。 ・CAP等の学習を進める。	・日常生活の中で起こりうる、災害・犯罪等に対する心構えができる。	B	・アンケート結果では、保護者も児童も80%前後が意識できている。 ・防災の避難訓練、自転車教室、CAPの研修等を年間を通して、計画的に進め、緊急時に備えることができた。しかし、児童の防災意識をもっと高めるために、家庭への啓発、協力も必要である。	・避難訓練については、緊急時の下校方法も含めて、年度の早い時期に児童に徹底できるように、訓練の時期も検討して取り組んでいく。 ・下校時の安全体制については、児童への下校指導を徹底しながら、保護者への啓発も行っていく。	・子どもの安全を脅かす危険は多種であるので、地域の協力、連携を含めた避難訓練にはどうか。

学校関係者評価総括

- ・英語学習についての項目を入れていく。
- ・小中連携の目標を入れてはどうか。
- ・全体的に、個々の目標に対して細やかに対策をとっている印象を受けた。
- ・学校が単に学力の向上だけを目的とするものではない以上、家庭や地域との連携が重要である。「学校」「家庭」「地域」という枠組みの中で、それぞれが情報を共有し信頼関係を築いていく事が大切だと思う。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・市内発表をする中で、これまでの授業への取り組みの成果が出てきた事がわかった。引き続き、授業改善を進め基礎基本の定着をはじめ、学習意欲を持たせる取り組みを推進していき、学力の向上を図る。
- ・道徳の教科化にともない、カリキュラムの見直しや学校生活全体を通じた心の教育の取り組みを進める。
- ・コミュニティースクールとして地域に根ざした学校運営を進める中で、情報の共有や危機管理等について地域と一体となって児童の育成を図る。
- ・子ども達の実態を踏まえて、子どもも教師も取り組みの成果がわかりやすい算数などを研究教科として選定し、学校全体で取り組んでいくよう努めていく。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った